

講義タイトル	『ハックルベリー・フィンの冒険』から生き方を考える	学科名	人間生活学科
		講師名	水野 敦子/教授
		専 門	アメリカ文学

## 概 要

アメリカ作家マーク・トゥエインの傑作『ハックルベリー・フィンの冒険』（1885）の主人公ハック少年の生き方は、生きづらい現代社会に生きる我々に多くのことを教えてくれるのではないかと思います。

ハックは浮浪児で保護者も家も金も知識もなく、それだけで「か弱い」存在に見えます。しかし、彼は、学校にも行かず、自分で食糧を調達して星空の下で眠るという自由気ままな生活を満喫しています。そんな彼を「かわいそう」と同情した未亡人に引き取られますが、窮屈な文明生活に耐えきれずに家出し、偶然出会った逃亡奴隷ジムと一緒に筏に乗って川下りの旅をすることになります。ハックは、ジムの高貴な人間性やおいしい食事と暖かな寝床を用意してくれる彼の生活能力に感嘆します。筏はハックにとってのかけがえのない「ホーム」となり、最後は、自分を「実の子供」のように愛情をもって接してくれたジムを、「地獄墮ち」の覚悟をして救うことを決意します。黒人奴隷制があった当時、逃亡奴隷を助けることは大きな罪だったのです。

話の筋を追うと簡単ですが、ハックはずっと矛盾した気持ちを持ち、その中で葛藤しながら旅を続けます。窮屈な文明生活に嫌気がさしながら、そうかといって自然のなかでは孤独を感じます。ジムに対しても感謝と敬意をもちながら、黒人ゆえに軽蔑の感情を持ち、何度も密告しようという誘惑に駆られます。そんな矛盾した感情に揺れるのは、人間として当然ですが、最後に人間として立派な選択をします。

文学では、「勝ち組」も「負け組」もなく、さまざまな人がさまざまな環境や時代のなかで多様な生き方をしていることを教えてくれ、そうした文学の世界を覗くことで、人生が豊かになっていくと思います。